

牧師、バイカー、鮎職人として。。。シェア from LA
第42話 コロナ、ロックダウン、妻の事故 ⑮「祈りの援軍 Part 2」

事故からちょうど1月経った日、思わぬ客人がSD（サンディエゴ）からやって来た。ボニータ教会の荻原神学生ご夫妻だ。わざわざ往復300キロの道をギフトを持って駆けつけてくださった。実は彼らとは4年ほど前にFBで繋がり、遠方ということもあり会うのは3年ぶり、しかもこれがまだ2度目なのでそれほど親しいとは言えない。にもかかわらず親しく感じるの言うまでもなく祈りの友、信仰の友であるからだ。だがそれだけではない。

実は彼（通称テッチャン）は私と同じく鮎板前をしながらミニストリーをしており、しかも奥さんも飲食店勤め、つまり私も夫婦と同じなのだ。おまけに彼は詩篇100篇でワーシップソングを作り自らジャカジャーン！とギター伴奏したり、福音4コマ漫画「イエス様といっしょ」を書いてFBに投稿したり、何とも愉快で多彩な御仁だ。

しかも今回の訪問にあわせて彼は本投稿「シェア・フロム・LA、第26話」を漫画化した原稿までプレゼントしてくれた！ビックリ！彼はサーファーでもあるので、「ボクも真似して『牧師、サーファー、鮎職人、プラス漫画家』で行こうかな。先生いいですか？？」などどこまでもひょうきんな人だ。

実はこの頃、妻は激痛で殆どで眠れず、そのうえロックダウンで人に会えないのでストレスが限界に達していた（39話参照）だけに、ご夫妻の愛とテッチャンのユニークさにどれだけ助けられたか分からない。特に彼が描いた漫画には大笑いして事故の暗いムードを吹き飛ばしてくれた。正に詩篇100篇のとおりだった。小さな単立のハウスチャーチでも主は目をかけてくださり、折に叶った助けを送ってくださることを知った。晴れるや！

「全地よ。主に向かって喜びの声を上げよ！

喜びをもって主に仕えよ！ 喜び歌いつつ御前に来たれ！」 詩篇100篇1-2節

11-13-2020

